

「日本の美」総合プロジェクト懇談会（第5回）

ジャポニスム2018総合推進会議（第2回）

議 事 要 旨

○日 時：平成29年11月17日（金）18：10～18：40

○場 所：官邸2階大ホール

○有識者：津川座長（総括主査）、内永委員、幸田委員、小林委員

○政府等：安倍内閣総理大臣（議長）、河野外務大臣、
野上内閣官房副長官（議長補佐）、宮川文部科学大臣政務官、
兼原内閣官房副長官補、宮川外務省国際文化交流審議官、
安藤国際交流基金理事長（主査）、中岡文化庁次長

1 開 会

2 総理挨拶

3 議 事

（1）ジャポニスム2018の企画案の検討状況について

（2）ジャポニスム2019（仮称）の開催国について

（3）意見交換

4 閉 会

（司会：野上内閣官房副長官）

1. 開会

2. 総理大臣挨拶

冒頭、安倍内閣総理大臣より、以下のとおり挨拶があった。

「日本の美」総合プロジェクト懇談会で芽生えた「日本博」のアイデアは、日本が誇る文化の力を外交に生かすという構想のもと、有識者の皆様の御助言も踏まえ、いよいよ来年、フランスにおいて「ジャポニスム2018」として大きく花開こうとしている。

日本政府によるこれほど大規模な文化事業は今世紀で初めてとなるものであり、事情が許せば、私自身、フランスのマクロン大統領とともに、7月にパリで行われる開会式に出席をし、「ジャポニスム2018」の機運を盛り上げたいと

考えている。

来年7月から2019年2月までの約8カ月間にわたり、「ジャポニスム2018」のもと、パリを中心とするフランス各地で、日本の文化や芸術を多面的に紹介する多数の企画が準備されている。

日本の伝統文化としては、伊藤若冲や琳派の至宝から歌舞伎・能まで、現代の文化としては、最新技術を駆使した体験型のデジタルアートから今の時代を牽引する現代演劇まで、さらには日本食や地方の祭りなど、日本各地の魅力を余すことなくお届けする、わくわくするようなラインナップになっている。これらにより、日本文化の魅力を余すことなく発信してまいりたい。

今後、国内外への広報に努め、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向け、世界中の人々の関心を日本に引きつけることにより、この事業の発信効果を最大限に高めていきたいと考えている。

「ジャポニスム2018」の本番まで、既に1年を切っている。関係府省に対し、本事業の成功に向けて政府一体となって全力を挙げて取り組むよう指示するとともに、日仏両国の企業からのより一層の御協力をお願い申し上げる。

委員の皆様には、懇談会及び総合推進会議の委員として、「ジャポニスム2018」の成功に向け、忌憚のない御意見をいただくようお願いしたい。

(報道関係者退室)

3. 議事

(1) ジャポニスム2018の企画案の検討状況について

安藤国際交流基金理事長より、資料1に基づき、ジャポニスム2018の企画案の検討状況について、説明があった。

(2) ジャポニスム2019（仮称）の開催国について

次に、宮川外務省国際文化交流審議官より、資料2に基づき、ジャポニスム2019（仮称）の開催国について、説明があった。

退席される安倍内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。

○来年、いよいよ7月から「ジャポニスム2018」がスタートをする。現在、日本には、今年、おそらく2,800万人以上の観光客がやって来ると見込まれるが、2020年には4,000万人を目指していきたい。

○多くの方々に日本に触れて帰っていただき、日本の理解が進んでいるわけで

あるが、その中でもやはり日本の文化を今度は発信力の強い世界の文化の都市であるパリから世界に向けて発信するという日本にとっては非常に大きなイベントになるわけであり、これはフランスだけではなくヨーロッパ中から人々が集まり、過去から現代に至る「日本の美」に触れていただきたい。

- その中でもっと日本を知りたいと日本をさらに訪れていただければと思う。経済的な効果もあるわけだが、日本への理解も深まっていく。文化の力というのは世界から敬意を持って見つめられる、いわば尊敬を受ける上において大変なソフトパワーであるので、多くの方々に知っていただく大きなチャンスである。これを来年の最大の我が国のイベントとして、皆様の御協力をいただきながら成し遂げていきたい。

(3) 意見交換

次に、各委員等による意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

【津川座長（総括主査）】

- ただいま宮川審議官から御提案があったアメリカ、いいのではないかと思う。パリは、先ほども総理から発信力が強い国だとおっしゃったけれども、文化においてはもちろん老舗の国だ。アメリカは新興の文化国ではあるが、先日、トランプ大統領がいらっしゃったし、今、注目を浴びるという意味においては、アメリカがいいのではないかと思う。
- 東南アジアのことは詳しくわからないので申し上げかねるが、何より2020年には東京オリンピック・パラリンピックがあり、日本人も盛り上がり、パリ、アメリカの次は、日本というように文化の力で人を呼び、かつ日本の存在感を高めるということは素敵なことだと思うので、是非、推進していただきたい。

【内永委員】

- こういったプログラム、ここまで具体的に決めていただいた安藤理事長、その他の多くの方々、小林委員も含めて、本当に素晴らしいと思う。私個人としても心からお礼を申し上げたい。こういったことはなかなかやりたいと思ってもできなかったのが、津川座長が非常にパッションを持って推進していただいたことがこういった形になったのだと思う。
- どれをとっても素晴らしいが、これからお願いしたいのは、どうやって広報していくかということである。このロゴができていくわけだが、共通のメッセージ、ある意味ではキーメッセージのようなものがあった方がいいのではな

いか。これは、これから皆さん方、ないしは広く広めることによっていろいろな方からの公募をしてもいいかと思うが、そういう意味では、ただ、日本の文化をいろいろ並べていますというのだともったいないので、何らかのキーメッセージないしはタイトルのようなものが欲しいと思った。

- 実施するに当たって、日本の方も世界に行ってそういうものを御覧になると、やはりもう一度、日本の文化は素晴らしいと認識していただけると思う。意外と日本人が知らないということも多いので、それもどのように企画していくのかといったことや、これから人の動員とそのロジスティックスとキーメッセージをどうするのかといったところが、来年の7月まであまり時間がないので集中的にやっていただけると、非常に大きなメッセージ性のあるものになると思っている。しばらくこの会議がなかったが、今日はお話しいただいて、その間、皆様方が大変な御苦勞をされてここまでいらしたことについて、まず本当に心からお礼を申し上げたい。これから一生懸命頑張り皆で盛り上げていきたいと思う。

【幸田委員】

- 関係各位には大変な御尽力だったろうというのが伝わってくる。リストについて伺っているだけでこちらがわくわくする。まさに、先ほど総理がおっしゃったとおりであり、それはおそらく国民全員が共通の思いを抱くのではないかと思う。
- 内永委員もおっしゃったように、このロゴマークはビジュアルなマークであるが、言葉の、先ほどキーメッセージとおっしゃったが、もうひとつ、キャッチーな言葉があるとロゴマークと両方の相乗効果で、さらにインパクトが生まれると思う。全体を俯瞰するような何か1つのキーになるシンボリックな言葉を考えられるのは、とても意味のあることで、訴求力を高めてくれる。
- 来年はパリに複数回通いたいな、と思うようなものが盛りだくさんであり、しかも、古いものと新しいものの融合も目指されている。一極に集中しないところ、これが素晴らしいと思うので、1つ願うのは国内の隅々まで周知をもっとやっていただきたいということ。取材などを受けるとき、ところどころで私なりに発信してきたつもりだが、まだ国内での浸透が十分でなく、本当にもったいないと感じてきた。集客という意味でも、国内に向けても、それこそ国民全部を引き込むような積極的な周知をすれば、皆がきっと誇りを持って、いろいろな形で参加してくださると思う。
- それがひいては地方活性にもつながると思うので、国内に向けての周知活動を是非力を入れてやっていただきたい。もうでき上がったものは素晴らしいことは間違いないので、国民、国内の皆さんに伝わるような、そういった工

夫など、あと一步の御尽力をいただけたらと思う。

- 次に続くということも、1つの力強いメッセージになるだろう。アメリカ、ましてニューヨークというのは世界各国の人々が集まっており、互いにしのぎを削り、刺激し合う街なので、とてもインパクトのある次回開催が望めると思う。
- 偶々今週の初めまでシンガポールに行っており、改めてアジアのパワーを再確認してきた。特に若い力の存在という印象を受けたが、一方で日本は大人、高齢者が頑張っているという印象が否めない。日本から伝統文化や芸術に携わる方が出向いて、逆に開催地から得るものもあると思うので、アジア、ASEANは次の候補地として是非とも入れていただきたいと思っている。

【小林委員】

- 日本のアーティストや美術館、文化庁などの御協力が大変あったことと、さらにフランスの現地で会場を手当てするのは大変な御努力だったと思うので、安藤理事長ほか、皆様方の御努力に深い敬意を表したい。
- フランスへ行きたいなという日本の皆さん、これが国内に広報されれば、私たちがフランスの方々と一緒に日本文化に浸りたいなという気持ちになるのではないかと思う。2019年は東南アジア、これは大変大切な日本とのつながりの国々で、九州国立博物館や福岡市美術館、九州の方々は大変熱心にこれまで積み上げてきているので、また豊かな盛り上がりがあるかと期待される。
- ロゴマークについて、フランス国旗の三色、富士山、日の丸、波は北斎の大波。フランスの19世紀後半のジャポニスム以来、大変なアイコンになっているものなので、見事なデザインが実ったなと思い、これもまた嬉しく思う。
- アメリカに在住の日系の方や日本人の方にもう少し発信してもらいたいという御意見が届いてくるのだが、是非、東海岸だけではなくて西海岸のほうも含めて展開していただけたらと希望する。

【野上内閣官房副長官】

- まさに2020年を見据えてロゴマークを生かしながら広報をして、国内にも周知しながらキーメッセージを出していくというのは本当に重要な話だと思う。しっかり検討させていただきたい。
- 開催国についても御意見をいただいたが、「ジャポニスム2019」の開催国について、事務局からの説明のとおり、アメリカと東南アジアということによるしいか。

(「はい」との声)

○それでは、2019の開催国はアメリカと東南アジアとさせていただきたい。

【内永委員】

○日本ではやらないのか。間のどこかで日本でやるということはないのか。

【津川座長（総括主査）】

○2020年にやるのが良いのではないか。

【内永委員】

○なるほど、オリンピックのときに。

【津川座長（総括主査）】

○東京オリンピックに合わせて実施したらどうかと提案はしているところ。

【宮川文部科学大臣政務官】

○委員の先生方から大変貴重な御意見をいただき、改めて感謝を申し上げたい。

○2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けては、我々は、もちろん文部科学省として、また文化庁を中心として、日本の魅力や文化を発信することが大変大きな仕事というように思っている。ジャポニスム2018・2019を通して、そういう機会をしっかりと設けていただきながら、私たちも積極的に協力、実施をしてまいりたい。

○そして、先ほど委員の先生方からお話があった若手の人たちについて、これまでの伝統文化を大切にしながら、新たな文化をつくり出そうとするような若い芽を見つけるような機会にもしたいと思っている。私の周りにもそういうことをチャレンジしたいという若者がいるので、是非、伝統文化と、そして、これから未来をつくっていく、文化をつくっていくような人たち、そして、それを望む地域にもスポットライトを当てられるような3年間にしてみたいと思うので、引き続きの御指導をどうぞよろしくお願いしたい。

【河野外務大臣】

○今年が日本が最初に参加したパリ万博から150周年、来年は日仏修好160年という節目の年が続く。そういう中で、この2018年、「ジャポニスム2018」というのは非常にタイムリーだと思っている。また、2019年のアメリカ、東南アジアを通じて、2020年のオリンピックに合わせて日本の存在感をしっかりと高めていきたい。

- 今年は日本・デンマーク150周年という年で、私もそれに合わせてデンマークに行ったのだが、実はデンマークは日本刀のつばや日本の古い小判、そういうものが大量にコレクションされていて、日本で見られないようなものがデンマークへ行くと見られる。昔から日本とヨーロッパというのは特にそうした文化、デザインの面で非常につながりが深いものであるため、こちらから持っていくのと同時に、フランスにある日本の文化も一生懸命引っ張り出して、そういうものを今度は2020年、日本に持ってきていただいて再確認をする、そういうことも必要なのではないかというように思っている。
- 国際交流基金としっかり連携をしながら、外務省もこの成功に向けて頑張っ
てまいりたいと思う。引き続き御指導のほど、よろしく願いしたい。

4. 閉会

最後に、野上内閣官房副長官より、以下のとおり説明があり、閉会となった。

- 本日いただいた貴重な御意見も踏まえながら、「ジャポニスム2018」の成功に向けて、政府一丸となって取り組んでまいりたい。引き続き、御指導のほどよろしく願いしたい。
- 本日の議論の内容については、ホームページに議事要旨を掲載させていただく予定である。